



4 小児童が森林の保育活動 平泉古事の森育成事業

文化財の修復作業に使う木材の確保や森林保全に取り組む「平泉古事の森育成事業」(平泉古事の森育成協議会主催)が10月6日、奥州市衣川区の月山国有林で開催されました。同事業には平泉小4年生と長島小5年生、奥州市の衣川、衣里の各小学校4年生、関係者ら約120人が参加しました。児童たちは丸太をヒバの木の周りに敷き詰めて雑草をおさえる作業を実施。ノコギリでの輪切り作業に苦戦していましたが、木の生長を願い一生懸命取り組んでいました。



世界遺産の地・平泉を盛り上げる 世界遺産劇場 Extra

9月16日から18日までの3日間、観自在王院跡の野外特設ステージを会場に「世界遺産劇場 Extra」(世界遺産劇場実行委員会など主催)が開催されました。歌舞伎や音楽の舞台が繰り広げられ、世界遺産の地・平泉を盛り上げました。2日目の17日には、日本史をテーマに歌う「レキシ」が出演。台風18号の影響で雨が降る中、「狩りから稲作へ」「きらきら武士」などの代表曲を熱唱し、集まった約3,400人の観客を沸かせました。



平泉町社協へ軽乗用車を寄贈 一関信金創立70周年記念事業

10月12日、一関信用金庫(及川弘人理事長)から町社会福祉協議会(高倉秀維会長)に軽乗用車1台が寄贈されました。2018年に創立70周年を迎える同信金の記念事業。町社協事務所前で贈呈式が行われ、及川理事長が町社協の高倉会長にマスコットキーを手渡しました。贈呈された車両は職員の移動に活用され、高倉会長は「今後も社会福祉に貢献する人材の確保と育成に努力し、ふれあい・支え合い・温もりのある福祉のまちづくりを推進していきます」と話していました。



自衛隊に支援協力 平泉町に感謝状

9月24日、仙台駐屯地で行われた東北方面隊創隊57周年記念行事において、平泉町は東北方面総監から感謝状を贈られました。平泉町は、自衛隊岩手地方協力本部と連携を図りながら自衛官募集に関して広報活動を実施。2016年5月から、眞籠信巳さん(15区)と高橋誠さん(4区)が自衛官募集相談員として活動されています。今年4月には、町内から2人入隊しました。

減塩方法と野菜の取り方を学ぶ かるしお・野菜たっぷりヘルシーメニュー研修会

10月13日、かるしお・野菜たっぷりヘルシーメニュー研修会を保健センターで開催しました。研修会では脳卒中を含む生活習慣病予防のため、講話や調理実習を通じて具体的な減塩方法と野菜の取り方について学びました。講師を務めた元国立循環器病研究センター調理師長の竹田博幸さんは「かるしおレシピのおいしさの決め手は『だし汁』と『八方だし』とだしの重要性を説明。参加者に素材のうま味を引き出す方法を丁寧に教えていました。



来場者が100万人到達 道の駅平泉

道の駅平泉の来場者数が9月29日、4月のオープンから5カ月余りで100万人に到達し記念式が行われました。100万人目となったのは、札幌市中央区の中山慎太郎さん、奈那さん夫妻。中山さん夫妻と千葉邦彦駅長、青木幸保町長がくす玉を割り、花束や記念品の新米の町産ひとめぼれ30*の目録が手渡されました。道の駅平泉は県内外から多くの観光客が訪れており、平泉の文化や農産物などの魅力発信の場となっています。



職人が仕事の内容を紹介 平泉五感市

10月14日と15日の両日、県南地方の職人が伝統工芸や各種工芸の魅力をPRする体験型イベント「平泉五感市」(いわて県南エリア伝統工芸協議会主催)が翁知屋(平泉字衣関)で開催されました。秀衡塗、岩谷堂筆筒、南部鉄器、染物、太鼓などの県南6事業所が参加。製作体験や商品販売に加え、職人が仕事のこだわりや製作現場の裏話について映像を見ながら紹介する「職人トークライブ」があり、来場者は伝統工芸の魅力に理解を深めていました。



長島保育所で人権交流会 友達と仲良くすることの大切さを学ぶ

10月5日、長島保育所で在園児86人を対象に人権交流会が開催されました。平泉町と一関市の人権擁護委員によるオリジナル人形劇「いっしょにあそぼう」では、友達と仲良くすることの大切さを呼びかけ、園児たちは「意地悪しちゃだめだよ」と話しながら、真剣に見入っていました。その後、人KEN まもる君、あゆみちゃんのマスコットが配られ、人形劇に登場した人形たちと委員と握手やタッチをするなどして交流を深めました。